

◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

夏休み真っ只中にあたる8月は、エコネット応援団の皆さんなどにより、木曽三川流域でさまざまな自然観察・環境学習の行事が開催されました。なかでも、イタセンバラの生息する木曽川流域では、環境調査を子どもたちが体験する取り組みがいくつも行われ、楽しそうな声があちこちの水辺で聞かれました。また、各地で希少魚イタセンバラの水そう展示がはじまりました。

8/5(土)
一宮市 起

子どもたちが木曽川ワンドを冒険！ 一宮市ミズベリング事業「集まれ！ミズべの勇者たち」 が開催されました。

一宮市 ミズベリング138 事業の一環として、木曽川起地区(人工ワンドと一宮市尾西歴史民俗資料館)で『夏休み 集まれ！木曽川ミズべの勇者たち』が開催されました。

参加者は一宮市内の小中学生とその保護者 13 組 31 名で、調査員となった子どもたちは、タモ網を手に木曽川に入って魚とったり、定置網の網上げ見学などを行いました。つかまえた生物は名前や数を調べて調査票にとりまとめ、モツゴやタモロコ、カネヒラ、トウカイヨシノボリなど 18 種類の魚類を記録しました。

木曽川起地区は、ワンド生物の生息環境保全のための工事(樹木の伐採や底泥の浚渫等)が行われた場所のひとつで、魚類等のモニタリング調査も実施されています。資料館では、ちょうどイタセンバラの水そう展示も実施中で、泳ぐイタセンバラを間近に見たあと、さらにイタセンバラなどのすむ良好なワンド環境を実際に調べる体験ができる絶好の機会となりました。

行事の最後には、子どもたちが自分でとった魚などを描いてピンバッチをつくる工作も実施され、その日の思い出を楽しそうに持ち帰っていました。



木曽川起の人工ワンドで魚とり



当日は中野市長も参加されました

8/5(土)
海津市 下池

魚がすんでる田んぼのお米はおいしい！ 「水田の生きもの調べ（コープぎふ西濃エリア）」が実施されました。



魚とりでは水田周辺のさまざまな生物が採捕されました



つかまえた魚の説明



生物多様性米の展示販売

海津市南濃町の下池地区のため池・ビオトープと周辺水路で『水田の生きもの調べ』が開催され、およそ70名の親子連れで賑わいました(主催:コープぎふ西濃エリア委員会)。このビオトープ池では、この地域で絶滅してしまったウシモツゴが復元放流され、地域の皆さんによって保護活動が進められています。

参加した子どもたちはタモ網で魚をとったり、水路から水田に魚がのぼる水田魚道や水路にしかけた定置網でとれた魚を観察しました。魚をとった後は、講師の北島さん(東海タナゴ研究会)から魚の生態や特徴を教えてくださいました。また、水田にのぼる魚と魚道の関係やタナゴ類と二枚貝の関係などが学べる紙芝居も催されました。

お昼ご飯には、下池地区における生物に配慮したお米づくりに関するお話を聞きながら、生物多様性米のおむすびをいただきました。この水田では魚がすみやすいよう、肥料や魚道などに工夫をこらしており、魚類調査ではミナメダカやドジョウが増えていることなどを教えてくださいました。

生物多様性保全を通じた地域づくりの一環として、下池地域農地・水・環境保全管理組合、東海タナゴ研究会、株式会社CAF、合同会社サトガワキカクの皆さんが協力して運営されており、楽しい一日となりました。

8/3(木)
刈谷市

第47回「愛知県野生生物保護実績発表大会」ヘイタセンバラ保護活動を報告

昭和46年から毎年開催され、今年で47回目となる「愛知県野生生物保護実績発表大会」が、刈谷市産業振興センターで開催されました。

県内の小学校5校、中学校3校、高等学校5校から、地域で行っている生物保護活動に関する発表が行われ、愛知県立木曽川高等学校（総合実務部）と一宮市立尾西第一中学校から、それぞれイタセンバラの水そう飼育のようすなどが報告されました。木曽川高校からは、一宮市内で実施したイタセンバラに関する意識調査では、年齢が低い(29歳以下)ほど、イタセンバラを知らない人が多いことなど、これまでの研究成果が発表されました。



木曽川高校の皆さんの発表のようす

7/20(木)
各務原市

一宮高校生物部が 岐阜県水産研究所を見学

イタセンバラの水そう飼育に取り組む愛知県立一宮高等学校生物部の皆さんが、岐阜県水産研究所を見学されました。

同研究所では「清流の国ぎふ森林・環境税」の一部を活用したイタセンバラ保護増殖の取り組みが進められています。当日は、特別に飼育施設を見せていただき、研究員の方から、絶滅の危機に瀕するイタセンバラ保護の難しさなど、詳しくお話を伺いました。

同研究所（各務原市、河川環境楽園内）は、施設の一部が一般公開されていますので（イタセンバラ飼育施設は非公開）、お近くまで行かれた方は、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

8/5(土)
一宮市

尾西第一中学校生徒が 木曽川ワンド環境調査を体験

一宮市立尾西第一中学校の皆さんが、木曽川起地区で実施中（木曽川上流河川事務所）のワンド環境調査を体験する環境学習会が実施されました。

参加したのはイタセンバラの水そう飼育に取り組む有志の皆さん20名で、当日はワンドに入って魚類採捕調査を体験するとともに、調査員からワンドの生物やその保全事業に関する説明を受けました。

一宮市尾西歴史民俗資料館の学芸員の方から、木曽川の歴史に関するお話もあり、生徒の皆さんは熱心にお話に聞き入っていました。



採捕した魚類の説明を聞く生徒の皆さん

ピックアップ

ニュース

イタセンバラの泳ぐ姿を見ませんか。 一般公開中のイタセンバラ水そう展示施設を紹介します。

現在、環境省のイタセンバラ域外保全事業において、イタセンバラの系統保全等を目的として保護増殖された個体の一部が、一宮市・羽島市を中心とした自治体施設や小中高等学校、民間企業の約10箇所で飼育されています。

絶滅の危機に瀕するイタセンバラ保護の普及啓発等を目的とした取り組みで、一部施設の水そうは一般公開されています。見に行くのは秋がおすすめで、繁殖期にあたる9月以降、オスは鮮やかな婚姻色に色づいてきます。

【イタセンバラ一般公開中の施設等（H29.9.25時点）】

- 一宮市尾西歴史民俗資料館（一宮市起字下町211）
- 木曽川上流河川事務所（岐阜市忠節町5-1）
- 羽島市立図書館（羽島市竹鼻町丸の内6-2）
- 尾西信用金庫本店（一宮市竈屋1-4-3）
- 三井住友信託銀行一宮支店（一宮市栄3-7-15）



※水そうが見学できるのは、各施設・店舗の営業時間中に限ります（無料）。なお、イタセンバラの状態によっては展示終了となっている場合がありますので、ご了承ください。

ニュース情報を募集しています！

木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報をニュースレターにまとめて発信しており、生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、流域のフレッシュな情報を募集しています。下記お問い合わせ先まで情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所）とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体・河川管理者・有識者によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ〈<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojoyo/econet/index.html>〉

